

ちいさな証

”みことばの光”で豊かな交わり

中村京子

フランクフルト日本語福音キリスト教会会員



一人で聖書を読んでいると分からないことにぶつかることがあります。そんな時に会ったのが「みことばの光」でした。

私たち夫婦は定年になり数年が過ぎました。趣味

といえば「読書」しかない主人です。日頃口数も少ないし、静かな老夫婦の生活です。兎に角、声を出すことも少なくなりました。心配なことがありました。これでは認知症になるのではないかということでした。それぞれが別の部屋で別の時間を過ごし、食事の時のみ話をするという生活のリズムでした。

何か二人でできることは？と、考えた時、思わされたのが毎日聖書を声を出して主人と読み「みことばの光」を手引きにしようという考えです。私たちはそれぞれ一冊ずつ「みことばの光」を購読しています。夫婦向かい合ってもあまり話すことがなかった生活の中に、「みことばの光」を用いて聖書の分からない箇所を話しあったり、分かち合ったり祈り合うことにより、今までの生活に潤いと活気が出てきました。

聖書と「みことばの光」を読むことから始める毎日になりました。目から鱗が落ちるといのはこういうことなのかと嬉しくなります。主人と二人で話し合ったり祈り合ったりする時間がこのように「みことばの光」を用いて与えられていることに、感謝の気持ちでいっぱいです。

ますます、多くの人びとに「みことばの光」が読まれ、新たなみことばの広がりへの貢献となるように祈り続けてまいります。

「あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です」

新しくなった”みことばの光”

矢吹博

フランクフルト日本語福音キリスト教会牧師
”みことばの光”編集長

「みことばの光」（戦後版）が発刊されたのは、1955年1、2月号からです。1971年クリスマスに洗礼を受けた私は、通っていた教会が「みことばの光」を用いて聖書を読むことを勧めていましたので、購読することになりました。

しかし、初めのうちは「積ん読」。毎日聖書を読むのが習慣化したのは数年後でした。そんな私が編集者を務めているとは、神さまのみわざ以外の何ものでもありません。

2018年1月号から「みことばの光」は新しい5年サイクルの開始とともに、体裁や内容を刷新しました。本文ページの文字サイズをこれまでよりも少し小さくして、文章量が10%ほど多くなりました。聖書が毎日の生活に届くために、みことばを信仰の友と分かち合うきっかけとなるようにとの願いをもって編集しております。

さらに、発行している聖書同盟を読者に知っていただきたいとして「聖書同盟掲示板」を拡充しました。読者の声も紹介することとしました。

表紙も新しくしました。デザインを引き受けてくださったのは私たちの子ども世代の某牧師。私たちがスタッフをしていた頃に、中学生や高校生のキャンプに参加していた方です。新しい世代の方が「みことばの光」に親しんでほしいという願いが込められています。「思い切ってやってください」と依頼しましたが、最初に表紙案をいただいたときには驚きました。表紙を開けると美しい花の写真が…。スイスに住む信仰の友がこのために、喜んで写真を提供してくださいました。

お友だちに「みことばの光」をお薦めください。また、ご感想やご意見をお待ちしています。

hiyabu1950@gmail.com

